

Bootstrap + JavaScript

フロントエンド技術



画面の見た目(Bootstrap)と 画面の動き(JavaScript)を利用



以前、Bootstrapのフォーム利用を紹介しました

Email address

```
<label for="txt1" class="form-label">Email address</label>  
<input type="text" class="form-control" id="txt1"  
      placeholder="name@example.com">
```



見た目は違うけど、使い方はHTMLのまま

HTML内の記述

```
<label for="txt1" class="form-label">Email address</label>  
<input type="text" class="form-control" id="txt1"  
        placeholder="example@aaa.com">
```

JavaScript内の処理

```
document.getElementById("txt1").value = "自動入力";
```



以前学んでいたJavaScriptが そのまま利用可能



JavaScript

簡単なおさらい





プログラムを書く場所

```
<script type="text/javascript">
```

```
</script>
```

JavaScriptのプログラムは这其中ですよ
という意味





「変数をこの名前で使うよ」という**宣言**

var a;

「変数を使うよ!」
という意味

「a」という
名前にします

変数を初めて使う前に「**宣言**」をする





ちなみに最近では宣言方法が一般的

let a;

「変数を使うよ!」
という意味

「a」という
名前にします

変数を初めて使う前に「**宣言**」をする



IDでタグを探す



IDでタグを探す方法

```
document.getElementById("ID");
```

HTMLの中から、IDを元に部品を持ってくるという意味 欲しいタグのID



手順①

やっぱり最初は各タグにIDをつけないと！

あとでHTML内からタグを探せるように、必ずIDをつけましょう



タグにIDを設定する方法

```

```

```
<a href="XXX" id="link1">
```



手順②

<script>内にて、IDでタグを探して、変数に入れておく



探して、変数に入れておく

```
let img1tag = document.getElementById("img1");  
let link1tag = document.getElementById("link1");
```

変数に入れておく

HTMLの中から、IDを元に部品を持ってくるという意味

欲しいタグのID



手順③

imgタグの「src」属性に、何か書きたいなら



src属性に値を設定する

```
img1tag.src = "image/photo1.png";
```

探して入れた変数に「.」をつけて
属性名

実際に書き込みたい内容

ちなみに「.」は「～の」という意味



手順④

aタグの「href」属性に、何か書きたいなら



href属性に値を設定する

```
link1tag.href = "https://yahoo.co.jp";
```

探して入れた変数に「.」をつけて
属性名

実際に書き込みたい内容





関数の詳細な作り方

JavaScriptおさらい

関数は<head>の中に<script>を用意し、そこに書く

```
function calc (num1,num2) {
```

「関数ですよ!」という意味
必ずこう書く

関数名

引数(仕事に必要な材料)
必要なだけ「,」区切りで

```
    let ret = num1 + num2;
```

```
    return ret;
```

```
}
```

戻り値(仕事の結果)
なにも返さないときは書かない





ボタン押したとき関数を呼ぶ

ボタンに「onclick」という属性で関数を呼び出す

```
<button onclick="funkt()">入力</button>
```

クリックしたら… 呼び出す関数
という意味の属性 (引数などもここで渡す)



✔ ボタンクリック時のイメージ

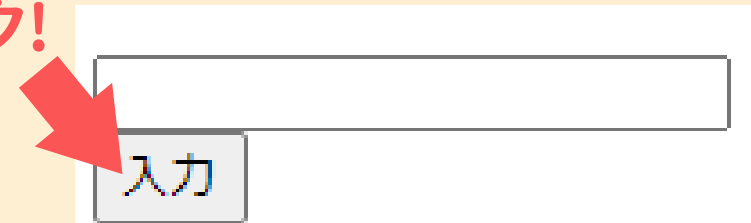
```
<head>
  <script type="text/javascript">
    function func(){
      関数内でやること
    }
  </script>
</head>
```

```
<body>
  <input type="text" id="msg"><br>
  <button onclick="func()">入力</button>
</body>
```

クリックされたので
ここが反応する

この関数が動き出す

クリック!



※今回は<form>は使わずに作ります



タグを追加する手順

- ①タグを作る
- ②タグの属性に必要な情報を設定
- ③タグを追加したい場所に配置



① タグを作る



タグを作る方法

createElementでタグを作ることができます

```
let newImg = document. createElement("img");
```

タグを作る!という命令 作りたいタグの種類

例) var newA = document.createElement("a");

例) var newP = document.createElement("p");

例) var newH1 = document.createElement("h1");



②属性に情報を設定



先ほど作ったタグに属性を設定
属性の設定方法は、今までやっていたDOM操作

```
newImg.src = "image/newPhoto.png";  
newImg.width = 300;
```

イメージ)

```
width="300">
```



③ タグを配置



属性の設定も完了したタグを、配置する

タグの配置は、「〇〇というタグ(親タグ)の中に入れる」という方法で行う

```
let oya = document.getElementById("div1");  
oya.appendChild(newImg);
```

このタグを配置する!!という意味

【実行イメージ】

```
<div id="div1">  
    
</div>
```



演習8-1

BS + JS



Bootstrap + JavaScript 演習

これまでの知識をすべて駆使して画面を作成

演習: BS + JS

 **cookpod**
新規会員登録

新規登録する

 **cookpod**
新規会員登録

メールアドレスの形式が不正です。

パスワードは8文字以上で英字（大文字/小文字）、数字、記号が1つ以上含まれる必要があります

新規登録する



現在のファイル

**「演習」フォルダ内の「演習8－1」を
ダウンロードしてください**



画面の部位の紹介

入力画面

演習:BS+JS

固定的コンテナ



画面の部位の紹介

入力画面

演習:BS+JS



ロゴの画像
大きさはレスポンシブ



画面の部位の紹介

入力画面

演習:BS+JS



新規会員登録

h1 横幅いっぱい
文字中央配置

メールアドレス

パスワード

新規登録する



画面の部位の紹介

入力画面

演習:BS+JS



フローティングテキスト



画面の部位の紹介

入力画面

演習:BS+JS



ブロックボタン
大きいサイズ



画面の部位の紹介

登録後画面

演習:BS+JS

固定的コンテナ



新規会員登録完了

登録メールアドレスにURLを送付しました。
URLをクリックして登録手続きを行ってください。



画面の部位の紹介

登録後画面

演習:BS+JS



登録メールアドレスにURLを送付しました。
URLをクリックして登録手続きを行ってください。

h3タグ



「動き」の説明

演習:BS+JS



新規会員登録

メールアドレスの形式が不正です。

パスワードは8文字以上で英字（大文字/小文字）、数字、記号が1つ以上含まれる
必要があります

メールアドレス

パスワード

新規登録する

メールアドレスの形式が
不正な場合



「動き」の説明

演習:BS+JS



新規会員登録

メールアドレスの形式が不正です。

パスワードは8文字以上で英字（大文字/小文字）、数字、記号が1つ以上含まれる
必要があります

メールアドレス

パスワード

新規登録する

パスワードが不正な場合

- ・8文字以上
- ・英字の大文字、小文字を必ず利用
- ・数字を必ず利用
- ・記号(. ? / -)を利用



「動き」の説明

演習:BS+JS

メールアドレス、パスワードが
正しければ、この画面に移動



「動き」のヒント

演習:BS+JS



新規会員登録

メールアドレス

パスワード

新規登録する

- この位置に「row」を作っておく
- rowには12の幅で、背景色が「アラート色赤」のdivを入れておく
- エラーがある場合は上記のdivに<p>タグを追加する



JavaScriptの資料

演習:BS+JS

**1年の時にご紹介していたJavaScriptの資料をTeamsに入れておきます。
参考にしながら、調べながら取り組みましょう。**

